

スポーツアナリスト科

2022 入学

授業概要

科目名	スポーツ現場実習VI		必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	土信田 結衣		
サブ科目名			学年	4年	授業形態	実習	総単位数	2 単位	総時間数	60 時間
学科・専攻	スポーツアナリスト科							2 単位		
【授業を通じての到達目標】 アナリストとしての現場実習により、アナリスト業務或いはイベント業務を理解する										
【学習内容】 (実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) 実際の現場での実習を積むことでスポーツアナリストとしての業務に就く、もしくはイベント運営の業務に就く。										
【使用教科書・教材・参考図書】			【授業時間外における学習】							
特に無し			特に無し							
コマ	授業計画		コマ	授業計画						
【実習概要】										
学生各々が選択したスポーツ現場でのアナリスト活動或いはイベント運営を行うことで、現場での経験を積んでいく。 なお、原則として以下に該当するスポーツ現場を想定している。										
<現場種類>										
<ul style="list-style-type: none"> ● プロスポーツチーム ● 社会人チーム ● 中学、高等学校、大学等の学校チーム ● スポーツテクノロジー関連企業 ● スポーツイベント関連企業 										
<実習職種>										
<ul style="list-style-type: none"> ● アナリスト或いは類する役割 ● イベントスタッフ或いは類する役割 ● 指導者或いは類する役割 ● 企画営業 ● カスタマーサポートサービス 										
【成績評価の方法と基準】										
科目全体を100点満点とし、実習評価に応じてA～Fの6段階で評価する。										
【履修に当たっての心構え・留意点】										
スポーツ現場での実習となるため、服務規定や規律については各現場のルールに順守する事										

授業概要

科目名	スポーツ現場実習Ⅶ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	土信田 結衣		
サブ科目名		学年	4年	授業形態	実習	総単位数	2 単位	総時間数	60 時間
学科・専攻	スポーツアナリスト科								
【授業を通じての到達目標】 アナリストとしての現場実習により、アナリスト業務或いはイベント業務を理解する									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する) 実際の現場での実習を積むことでスポーツアナリストとしての業務に就く、もしくはイベント運営の業務に就く。									
【使用教科書・教材・参考図書】			【授業時間外における学習】						
特に無し			特に無し						
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
【実習概要】									
学生各々が選択したスポーツ現場でのアナリスト活動或いはイベント運営を行うことで、現場での経験を積んでいく。 なお、原則として以下に該当するスポーツ現場を想定している。									
<現場種類>									
<ul style="list-style-type: none"> ● プロスポーツチーム ● 社会人チーム ● 中学、高等学校、大学等の学校チーム ● スポーツテクノロジー関連企業 ● スポーツイベント関連企業 									
<実習職種>									
<ul style="list-style-type: none"> ● アナリスト或いは類する役割 ● イベントスタッフ或いは類する役割 ● 指導者或いは類する役割 ● 企画営業 ● カスタマーサポートサービス 									
【成績評価の方法と基準】									
科目全体を100点満点とし、実習評価に応じてA~Fの6段階で評価する。									
【履修に当たっての心構え・留意点】									
スポーツ現場での実習となるため、服務規定や規律については各現場のルールに順守する事									

授業概要

科目名	データサイエンス基礎 I・II	必修 選択の別	選択	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	野村総合研究所 徳田靖之									
サブ科目名		学年	4年	授業 形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間							
学科・専攻	スポーツ科学トレーナー科スポーツアナリスト専攻						4 単位									
【授業を通じての到達目標】																
1)DS検定の合格を目指す 2)データ分析の考え方と手法を背景とし、生活や仕事における課題解決のアイディアを発想できるようになること																
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																
小売、流通、スポーツ、港湾、など様々な業界においてデータサイエンス案件を実施した経験を持つ講師が、データサイエンティストの役割や考え方、習得すべき手法、データエンジニアリングおよびデータ分析におけるビジネス的観点を習得する講義を実施する。 ※「授業単元」において、DSは「データサイエンス」、DEは「データエンジニアリング」、BIZは「ビジネス」の意味で使用する。																
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】											
最短突破 データサイエンティスト検定(リテラシーレベル)公式リファレンスブック 第2版 のほか、配布資料あり。					教科書および配布資料を使った予復習											
コマ	授業計画	コマ	授業計画													
1・2	【授業単元】 DS 数学的理解および、イントロダクション 【到達目標】 内積や行列計算を理解し、線形式をベクトルの内積や行列の積として表現できる。専門関数が傾きを求める式であることを理解し、2変数以上の関数では偏微分により勾配を求められること、積分と面積の関係を把握し、確率密度関数を定積分して確率を導くことができるることを理解できる。		17・18	【授業単元】 DS データ可視化 【到達目標】 データの理解において可視化の重要性を認識し、目的や内容に応じて適切な縦軸・横軸や層化の候補を設定できる。軸の粒度や順序も考慮し、表現の工夫ができる。さらに、分散の観点から主成分分析などで高次元データを低次元に変換する手法も活用できる。												
	【授業単元】 DE 生成AI 【到達目標】 生成AIの活用において、Few-shotやCoTなどのプロンプト技法やAPIパラメータを調整し、目的に応じた出力を得ることができる。画像生成ではモデル選択やプロンプトルールを理解し、適切な入力により意図した画像を生成できる。また、独自データを用いたプロンプト拡張や試行錯誤を通じ、より精度の高い出力を実現できる。			19・20	【授業単元】 DS 科学的解析の基礎 【到達目標】 標準正規分布の平均と分散を理解し、相関関係と因果関係の違いを説明できる。尺度の4分類(名義・順序・間隔・比例)の違いや、ピアソンの相関係数の構成も理解している。代表的な確率分布を複数説明でき、二項分布が試行回数の増加により正規分布へ近づくことを把握。量的・質的変数の関係の強さも算出できる。											
5・6	【授業単元】 BIZ 行動規範 【到達目標】 論理とデータの重要性を理解し、目的や仮説を明確にした上でデータ分析を行える。一次情報の重要性を認識し、新しいサービスや技術にも関心を持ち、主体的にリサーチできる姿勢を持つ。データを扱う者として不正行為を行わず、AIや機械学習の悪用リスクを理解し、基礎知識と倫理観を備えている。データの活用における倫理や法的制約、ユーザーへの適切な許諾の重要性を理解している。		21・22	【授業単元】 DS 科学的解析の基礎 【到達目標】 指標関数と対数関数の関係を理解し、グラフ形式を使い分けられる。ペイズの定理を説明でき、図表から分布傾向や特異性などの意味を客観的に抽出できる。主成分分析や決定木などの解析結果も適切に解釈・説明でき、ヒストグラムやクロス集計、散布図によりデータの特徴や関係性を把握できる。												
	【授業単元】 BIZ 課題の定義・アプローチ設計 【到達目標】 担当する分析プロジェクトにおいて、事業の収益モデルや主要変数を理解し、市場規模や競合、ビジネスモデル、課題と機会を説明できる。課題整理の基本枠組みも把握し、分析スコープを適切に捉えられる。仮説に基づき必要なデータへアクセスでき、明確なスコープがあれば適切な分析ができる。LLMのHallucinationリスクを理解し、検証や比較により正確性を判断できる。			23・24	【授業単元】 DS データ可視化 【到達目標】 データを視覚的に伝える重要性を理解し、軸の基準点や強調表現の適切さにも配慮できる。目的に応じて比較や分布などを1~3次元で図表化し、BIツールやスプレッドシートを使って分かりやすく可視化できる力を持つ。											
9・10	【授業単元】 DE ITセキュリティ 【到達目標】 セキュリティの3要素(機密性・完全性・可用性)、ハッシュ化など保護技術を理解できる。マルウェアやDoS攻撃などのリスクへの対応、SQLインジェクションなどへの対策を理解できる。IDSやEDR、AIによる不正検知、暗号化や電子署名、セキュアプロトコル、SSOなどの認証技術、ゼロトラストを理解できる。		25・26	【授業単元】 DS データ可視化・モデル化 【到達目標】 データ可視化では特異点や傾向などの視点を持ち、統計値を正しく読み取って回帰式や移動平均の意味を理解できる。単回帰分析では最小二乗法や決定係数を用いてモデル構築が可能で、重回帰分析では多重共線性を評価し、変数の統合・加工・削除による予測モデルの構築も行える。												
	【授業単元】 DS データの理解・検証 【到達目標】 単独グラフや集計表の整合性を確認でき、目的に対しデータの量・質が適切か判断できる。データの背景を踏まえ鵜呑みにせず、変化を把握し誤差との区別も可能。時系列データの扱いや分析手法を理解し、切り口や比較を工夫して本質的な事実を見抜く力を備えている。			27・28	【授業単元】 DS モデル化 【到達目標】 混同行列や各種指標(Accuracy、Precision、Recall、F値、特異度)を用いてモデル精度を評価できる。ROC曲線やAUC、MAE、決定係数なども理解できる。MSEなどが平均的評価であることを踏まえ、部分的評価や可視化にも対応できる。さらに、教師あり・なし学習の違いや過学習の概念とその問題点も説明できる。											
13・14	【授業単元】 DS データの準備 【到達目標】 標本誤差とサンプリングバイアスの違いを説明できる。外れ値・欠損値への対応方針を決定し、標準化やダミー変数交換ができる。加工データの検証方法を設計・実行し、統計的に次の解析に適した状態が評価できる。複数のデータを結合・集計して有効な特徴量を作成でき、データの可視化による理解の重要性も認識している。		29・30	【授業単元】 DS 科学的解析の基礎・上期試験 【到達目標】 点推定と区間推定、帰無仮説と対立仮説、第1種・第2種の過誤、p値や有意水準の意味を理解している。片側・両側検定の違いや、データの対応関係に応じた検定・検定の選択も可能。検定力や分布、サンプルサイズを考慮し、適切な検定手法で評価できる。p値に依存せず、信頼区間やペイズファクターも併用して透明性ある分析ができる。処置の効果測定には対照群との比較が必要であり、選択バイアスのリスクも理解している。												
	【授業単元】 DS 数学的理説・科学的解析の基礎 【到達目標】 集合の基本(和・積・差・補集合など)をベン図で説明でき、論理演算との対応も理解している。順列・組合せを適切に使い分け、確率・条件付き確率・期待値・独立性の基本概念も説明可能。平均・中央値・最頻値の違いや、分散・標準偏差・四分位数などの統計量を目的に応じて使い分けられ、母平均と標本平均、不偏分散と標本分散の違いも理解している。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。											
【履修に当たっての心構え・留意点】					試験は筆記試験で行う											
特になし																

授業概要

科目名	データサイエンス応用 I・II	必修選択の別	選択	開講区分	通年(後期)	担当教員	ヤン・ジャクリン		
サブ科目名		学年	4年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
1)DS検定の合格を目指す 2)データ分析の考え方と手法を背景とし、生活や仕事における課題解決のアイディアを発想できるようになること									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
1)データサイエンス分野での書籍執筆や資格検定向けの教育経験を持つ講師が、データサイエンティストの役割や考え方、習得すべき手法について講義を実施する 2)IoT分野でのソフトウェア開発、データ分析プロジェクトの推進経験を持つ講師が、データエンジニアリングおよびデータ分析におけるビジネス的観点を習得する講義を実施する									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最短突破 データサイエンティスト検定(リテラシーレベル)公式リファレンスブック 第2版のほか、配布資料あり					教科書および配布資料を使った予復習				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1・2	【授業単元】 法律・倫理 【到達目標】 契約の種別や開発の形式を理解し、簡単に説明できる データ利活用に関わる法規制・倫理を理解し、説明できる 知的財産に関わる基本事項を列挙できる	17・18	【授業単元】 統計学・数学 【到達目標】 代表的な課題発見・設定方法を理解し、例題に適用できる 目標設定の指標の違いを理解し、簡易的な目標の策定ができる 仮説の立案と検証のプロセスを理解し、例題に応用できる						
3・4	【授業単元】 法律・倫理 【到達目標】 契約の種別や開発の形式を理解し、簡単に説明できる データ利活用に関わる法規制・倫理を理解し、説明できる 知的財産に関わる基本事項を列挙できる	19・20	【授業単元】 統計学・数学 【到達目標】 代表的な課題発見・設定方法を理解し、例題に適用できる 目標設定の指標の違いを理解し、簡易的な目標の策定ができる 仮説の立案と検証のプロセスを理解し、例題に応用できる						
5・6	【授業単元】 統計学・数学 【到達目標】 基礎統計量を目的に応じて使い分けることができる 代表的な確率分布を理解し、データの広がりを数値化できる 仮説検定の手順を理解し、例題に適用できる 二変数間の関係性の特徴を理解し説明できる	21・22	【授業単元】 予備講義 【到達目標】 ここまでの中の内容の中で受講者が難しいと感じた箇所を補う						
7・8	【授業単元】 統計学・数学 【到達目標】 基礎統計量を目的に応じて使い分けることができる 代表的な確率分布を理解し、データの広がりを数値化できる 仮説検定の手順を理解し、例題に適用できる 二変数間の関係性の特徴を理解し説明できる	23・24	【授業単元】 予備講義 【到達目標】 ここまでの中の内容の中で受講者が難しいと感じた箇所を補う						
9・10	【授業単元】 統計学・数学 【到達目標】 基礎統計量を目的に応じて使い分けることができる 代表的な確率分布を理解し、データの広がりを数値化できる 仮説検定の手順を理解し、例題に適用できる 二変数間の関係性の特徴を理解し説明できる	25・26	【授業単元】 模擬試験 【到達目標】 模擬試験の実施 模擬試験の解説と質疑応答						
11・12	【授業単元】 統計学・数学 【到達目標】 基礎統計量を目的に応じて使い分けることができる 代表的な確率分布を理解し、データの広がりを数値化できる 仮説検定の手順を理解し、例題に適用できる 二変数間の関係性の特徴を理解し説明できる	27・28	【授業単元】 模擬試験 【到達目標】 模擬試験の実施 模擬試験の解説と質疑応答						
13・14	【授業単元】 統計学・数学 【到達目標】 基礎統計量を目的に応じて使い分けることができる 代表的な確率分布を理解し、データの広がりを数値化できる 仮説検定の手順を理解し、例題に適用できる 二変数間の関係性の特徴を理解し説明できる	29・30	【授業単元】 DS検定の受験 【到達目標】 DS検定を受験する						
15・16	【授業単元】 ビジネス応用 【到達目標】 代表的な課題発見・設定方法を理解し、例題に適用できる 目標設定の指標の違いを理解し、簡易的な目標の策定ができる 仮説の立案と検証のプロセスを理解し、例題に応用できる		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

授業概要

科目名	プロジェクトマネジメントⅠ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	株式会社クリーク・アンド・リバー社 宮本和弥 / 鈴木美智子		
サブ科目名	就職対策講座	学年	4年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	スポーツアナリスト科								
【授業を通じての到達目標】									
スポーツ業界全体の実態の把握と必要な職種に関して理解する。また、スポーツの種別・規模・職種によって、就業後の業務内容は大きく変化する為、どの状況でも対応できる、ビジネスの思考やマナーを習得する。スポーツ現場の実態を知る。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
Jリーグチームのチーム統括責任者として、サッカーチームの運営、サッカースクールの運営などを経て、独立し、プロスポーツチーム(Jリーグ、Bリーグ、Vリーグ、野球独立リーグ)の運営・事業・動員・広報・営業・強化を請負で行っている実務家教員として、スポーツ業界への就職を希望する学生に対しての就職準備ためのビジネスマネジメントの基礎を指導する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
なし					予め教材を読み予習し学習後は教材を読み返し理解を深め定着する。また常にスポーツ業界のニュースや市場をリサーチし最新の情報収集を行う。その他必要な予習、学習が発生する場合は、授業内にて案内予定。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション、授業のスケジュール、方向性の説明、自己紹介 【到達目標】 授業の目的、今後のスケジュールなどを理解する。 自分の目標仕事、志望理由など自分の言葉で表現できるようにする。	9	【授業単元】 セミナーまたは座談会②(ゲストの予定により変更あり) 【到達目標】 実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得る。						
2	【授業単元】 就職活動について①(エントリーシート) 【到達目標】 エントリーシートを作成する。	10	【授業単元】 就職活動について⑥(面接質問) 【到達目標】 想定される質問内容を理解し、自身のシミュレーションを行う。						
3	【授業単元】 就職活動について②(職務経歴書) 【到達目標】 新卒採用ではあるものの、これまでの実習経験を職務経歴書として作成する。	11	【授業単元】 就職活動について⑦(面接質問) 【到達目標】 前週に引き続き、シミュレーションを重ねることで就職活動における面接質問に対する準備を整える。						
4	【授業単元】 セミナーまたは座談会①(ゲストの予定により変更あり) 【到達目標】 実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得る。	12	【授業単元】 就職活動について⑧(対策) 【到達目標】 今までの内容を理解したうえで、仮想面接、ロールプレイングを行い、フィードバックを受ける。						
5	【授業単元】 就職活動について③(職務経歴書内における自己アピール) 【到達目標】 これまでの実習経験を職務経歴書での実習経験から、自己アピールポイントについて列挙する。	13	【授業単元】 セミナーまたは座談会③(ゲストの予定により変更あり) 【到達目標】 実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得る。						
6	【授業単元】 中間発表 【到達目標】 自己PRポイントを発表しあうことで、自己PRの抽出方法や伝え方の種類の多様性を理解する。	14	【授業単元】 テスト 【到達目標】 テストの合格						
7	【授業単元】 就職活動について④(面接準備) 【到達目標】 面接の重要な点を理解し、自身のシミュレーションを行う。	15	【授業単元】 まとめ 【到達目標】 今までの授業の振り返り、復習。 自身の今後について、最終プレゼンテーションを行う。						
8	【授業単元】 就職活動について⑤(面接準備) 【到達目標】 面接官側の心理を理解し、聞かれる質問を想定して意図を理解する。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

授業概要

科目名	プロジェクトマネジメントⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	株式会社クリーク・アンド・リバー社 宮本和弥 / 鈴木美智子							
サブ科目名	就職対策講座	学年	4年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間					
学科・専攻	スポーツアナリスト科													
【授業を通じての到達目標】														
スポーツ業界全体の実態の把握と必要な職種に関して理解する。また、スポーツの種別・規模・職種によって、就業後の業務内容は大きく変化する為、どの状況でも対応できる、ビジネス的思考やマナーを習得する。スポーツ現場の実態を知る。V														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
Jリーグチームのチーム統括責任者として、サッカーチームの運営、サッカースクールの運営などを経て、独立し、プロスポーツチーム(Jリーグ、Bリーグ、Vリーグ、野球独立リーグ)の運営・事業・動員・広報・営業・強化を請負で行っている実務家教員として、スポーツ業界への就職を希望する学生に対しての就職準備ためのビジネスマネジメントの基礎を指導する。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
なし					予め教材を読み返し学習後は教材を読み返し理解を深め定着する。また常にスポーツ業界のニュースや市場をリサーチし最新の情報収集を行う。その他必要な予習、学習が発生する場合は、授業内にて案内予定。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 オリエンテーション、授業のスケジュール、方向性の説明、自己紹介 【到達目標】 授業の目的、今後のスケジュールなどを理解する。	9	【授業単元】 理解度の中間確認 【到達目標】 理解度の中間確認を行うことで、社会人基礎力状況について確認する											
2	【授業単元】 コミュニケーションについて① 【到達目標】 自分を知る、相手を知る、相互理解、協調性とは、を理解し、自分の言葉で表現できるようにする。	10	【授業単元】 就職活動について①(面接準備) 【到達目標】 テキストを基に面接の重要点を理解し、自身のシミュレーションを行う。											
3	【授業単元】 仕事のマネジメント① 【到達目標】 分析方法や考え方を知る	11	【授業単元】 就職活動について②(面接質問) 【到達目標】 テキストを基に想定される質問内容を理解し、自身のシミュレーションを行う。											
4	【授業単元】 仕事のマネジメント② 【到達目標】 目標設定とゴール設定について考える。	12	【授業単元】 就職活動について③(対策) 【到達目標】 今までの内容を理解したうえで、仮想面接、ロールプレイングを行い、フィードバックを受ける											
5	【授業単元】 仕事のマネジメント③ 【到達目標】 自身を分析し、目標の設定する。	13	【授業単元】 セミナーまたは座談会②(ゲストの予定により変更あり) 【到達目標】 実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得る。											
6	【授業単元】 コミュニケーションについて② 【到達目標】 コミュニケーション①でやったことを振り下げる、「聞くこと」「伝えること」の重要性と方法を学ぶ	14	【授業単元】 テスト 【到達目標】 テストの合格											
7	【授業単元】 コーチングについて 【到達目標】 「人を動かすこと」の重要性と方法を学ぶ	15	【授業単元】 まとめ 【到達目標】 今までの授業の振り返り、復習。 自身の今後について、最終プレゼンテーションを行う。											
8	【授業単元】 プレゼンテーションについて 【到達目標】 「伝え方」の重要性と方法を学ぶ		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

授業概要

科目名	卒業研究Ⅰ		必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	土信田 結衣		
サブ科目名			学年	4年	授業形態	実習	総単位数	3 単位	総時間数	90 時間
学科・専攻	スポーツアナリスト科									
【授業を通じての到達目標】										
アナリストもしくはイベント運営スタッフとしての現場実習を通じ、各チーム・企業・団体における課題に対する対策を研究・立案していく。										
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するかも記載する)										
実際の現場での実習を積むことでスポーツアナリストとしての業務に就く、もしくはイベント運営の業務に就くなかでの課題発見→仮説→立案を行っていく。										
【使用教科書・教材・参考図書】			【授業時間外における学習】							
特に無し			特に無し							
コマ	授業計画		コマ	授業計画						
【実習概要】										
学生各々が選択したスポーツ現場でのアナリスト活動或いはイベント運営を行うことで、現場での経験を積んでいく中での、各自実習先での課題を見つけ、課題に対する仮説検証から提案を立案する。立案した内容を各現場実習先で説明した結果のフィードバックをもらう。 なお、原則として以下に該当するスポーツ現場を想定している。										
<現場種類>										
<ul style="list-style-type: none"> ● プロスポーツチーム ● 社会人チーム ● 中学、高等学校、大学等の学校チーム ● スポーツテクノロジー関連企業 ● スポーツイベント関連企業 										
<実習職種>										
<ul style="list-style-type: none"> ● アナリスト或いは類する役割 ● イベントスタッフ或いは類する役割 ● 指導者或いは類する役割 ● 企画営業 ● カスタマーサポートサービス 										
【成績評価の方法と基準】										
全体を100点満点とし、実習評価によってA~Fの6段階で評価する。各実習先におけるフィードバックにて点数化する。										
【履修に当たっての心構え・留意点】										
スポーツ現場での実習となるため、服務規定や規律については各現場のルールに順守する事										

授業概要

授業概要

科目名	国際文化Ⅲ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	株式会社クリーク・アンド・リバース 宮本和弥 / 鈴木美智子							
サブ科目名	就職対策講座	学年	4年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間					
学科・専攻	スポーツアナリスト科													
【授業を通じての到達目標】														
スポーツ業界全体の実態の把握と必要な職種に関して理解する。また、スポーツの種別・規模・職種によって、就業後の業務内容は大きく変化する為、どの状況でも対応できる、ビジネスの思考やマナーを習得する。スポーツ現場の実態を知る。														
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)														
Jリーグチームのチーム統括責任者として、サッカーチームの運営、サッカースクールの運営などを経て、独立し、プロスポーツチーム(Jリーグ、Bリーグ、Vリーグ、野球独立リーグ)の運営・事業・動員・広報・営業・強化を請負で行っている実務家教員として、スポーツ業界への就職を希望する学生に対しての就職準備ためのビジネスマネジメントの基礎を指導する。														
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】									
なし					予め教材を読み予習し学習後は教材を読み返し理解を深め定着する。また常にスポーツ業界のニュースや市場をリサーチし最新の情報収集を行う。その他必要な予習、学習が発生する場合は、授業内にて案内予定。									
コマ	授業計画	コマ	授業計画											
1	【授業単元】 オリエンテーション、授業のスケジュール、方向性の説明、自己紹介	9	【授業単元】 セミナーまたは座談会②(ゲストの予定により変更あり)											
	【到達目標】 授業の目的、今後のスケジュールなどを理解する。 自分の目標と仕事、志望理由など自分の言葉で表現できるようにする。		【到達目標】 実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得る。それら情報をまとめてレポートにし、自分の言葉で説明できるようにする。											
2	【授業単元】 就職活動について①(エントリーシート)	10	【授業単元】 就職活動について⑥(面接質問)											
	【到達目標】 エントリーシートを作成し、自己の強みが出ているかどうかのチェックをおこなうことができる。		【到達目標】 想定される質問内容を理解し、自身のシミュレーションを行い、まとめておく。それを自分の言葉で説明できるようにする											
3	【授業単元】 就職活動について②(職務経歴書)	11	【授業単元】 就職活動について⑦(面接質問)											
	【到達目標】 新卒採用ではあるものの、これまでの実習経験を職務経歴書として作成することで自身の経験をアピールできる		【到達目標】 前回に引き続き、シミュレーションを重ねることで就職活動における面接質問に対する準備を整える。											
4	【授業単元】 セミナーまたは座談会①(ゲストの予定により変更あり)	12	【授業単元】 就職活動について⑧(対策)											
	【到達目標】 実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得た上で、それら情報をまとめてレポートにし、自分の言葉で説明できるようにする。		【到達目標】 今までの内容を理解したうえで、仮想面接、ロールプレイングを行い、フィードバックを受ける。その内容をレポートとして作成する。											
5	【授業単元】 就職活動について③(職務経歴書内における自己アピール)	13	【授業単元】 セミナーまたは座談会③(ゲストの予定により変更あり)											
	【到達目標】 これまでの実習経験を職務経歴書での実習経験から、自己のアピールポイントを明確化し、言葉としてアウトプットする		【到達目標】 実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得る。それら情報をまとめてレポートにし、自分の言葉で説明できるようにする。											
6	【授業単元】 中間発表	14	【授業単元】 テスト											
	【到達目標】 自己PRポイントを発表しあうことで、自己PRの抽出方法や伝え方の種類の多様性を理解する。		【到達目標】 テストの合格											
7	【授業単元】 就職活動について④(面接準備)	15	【授業単元】 まとめ											
	【到達目標】 面接の重要な点を理解し、自身のシミュレーションを行うためにPC上でまとめる。それを自分の言葉で説明できるようにする		【到達目標】 今までの授業の振り返り、復習。 自身の今後について、最終プレゼンテーションを行う。											
8	【授業単元】 就職活動について⑤(面接準備)		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。											
	【到達目標】 面接官側の心理を理解し、聞かれる質問を想定集を作成し、また、質問の意図を理解する。その上で改めて回答内容について再検討する。		試験は筆記試験で行う。											
【履修に当たっての心構え・留意点】														
特になし														

授業概要

科目名	国際文化IV	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	株式会社クリーク・アンド・リバース 宮本和弥 / 鈴木美智子									
サブ科目名	就職対策講座	学年	4年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間							
学科・専攻	スポーツアナリスト科															
【授業を通じての到達目標】																
スポーツ業界全体の実態の把握と必要な職種に関して理解する。また、スポーツの種別・規模・職種によって、就業後の業務内容は大きく変化する為、どの状況でも対応できる、ビジネスの思考やマナーを習得する。スポーツ現場の実態を知る。V																
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)																
Jリーグチームのチーム統括責任者として、サッカーチームの運営、サッカースクールの運営などを経て、独立し、プロスポーツチーム(Jリーグ、Bリーグ、Vリーグ、野球独立リーグ)の運営・事業・動員・広報・営業・強化を請負で行っている実務家教員として、スポーツ業界への就職を希望する学生に対しての就職準備ためのビジネスマネジメントの基礎を指導する。																
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】											
なし					予め教材を読み予習し学習後は教材を読み返し理解を深め定着する。また常にスポーツ業界のニュースや市場をリサーチし最新の情報収集を行う。その他必要な予習、学習が発生する場合は、授業内にて案内予定。											
コマ	授業計画				コマ	授業計画										
1	【授業単元】オリエンテーション、授業のスケジュール、方向性の説明、自己紹介				9	【授業単元】理解度の中間確認										
	【到達目標】自分の目指す仕事、志望理由など自分の言葉で表現できるようにする。					【到達目標】理解度の中間確認を行うことで、社会人基礎力状況について確認する										
2	【授業単元】コミュニケーションについて①				10	【授業単元】就職活動について①(面接準備)										
	【到達目標】自分という人間を見つめなおし、自分の言葉や文章にしてみる					【到達目標】テキストを基に面接の重要な点を理解し、自身のシミュレーションを行った内容をまとめ、自分の言葉で説明できるようにする										
3	【授業単元】仕事のマネジメント①				11	【授業単元】就職活動について②(面接質問)										
	【到達目標】自分の強み、弱みなどを分析しレポートを作成する					【到達目標】テキストを基に想定される質問内容を理解し、自身のシミュレーションを行うための準備を行う。それを自分の言葉で説明できるようにする										
4	【授業単元】仕事のマネジメント②				12	【授業単元】就職活動について③(対策)										
	【到達目標】自身の目標設定を考え、ゴール設定をしてみる					【到達目標】今までの内容を理解したうえで、仮想面接、ロールプレイングを行い、フィードバックを受け、そのレポートを作成する。										
5	【授業単元】仕事のマネジメント③				13	【授業単元】セミナーまたは座談会②(ゲストの予定により変更あり)										
	【到達目標】自身を分析し、目標の設定したうえで今後の自身のアクションプランを作成する(2~3年後、5~10年後)					【到達目標】実際の採用担当者(業界関連企業や団体)から採用現場について情報を得た上で、それら情報をまとめてレポートにし、自分の言葉で説明できるようにする。										
6	【授業単元】コミュニケーションについて②				14	【授業単元】テスト										
	【到達目標】コミュニケーション①でやったことを掘り下げる、「聞くこと」「伝えること」の重要性と方法について学んだことをレポートにし、自分の言葉で説明できるようにする。					【到達目標】テストの合格										
7	【授業単元】コーチングについて				15	【授業単元】まとめ										
	【到達目標】「人を動かすこと」の重要性と方法を学んだことを自分の言葉で説明できるようにする。					【到達目標】今までの授業の振り返り、復習。 自身の今後について、最終プレゼンテーションを行う。										
8	【授業単元】プレゼンテーションについて					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。										
	【到達目標】今までの授業で作ってきた「自分のこと」、「自分に関わること」をプレゼンテーションする															
【履修に当たっての心構え・留意点】																
特になし																

授業概要

科目名	卒研ゼミ I	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	宮地 佑典 (日テレベレーザ)		
サブ科目名		学年	4年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	スポーツアナリスト科								
【授業を通じての到達目標】									
Hudl SportscodeもしくはDartfishを通して、アナリストとして現場で通用するための4つの力を獲得する - 組織内の問題を言語化し、メンバーと共に理解を得ることができる【言語化力】 - 明らかになった問題に対して妥当だと思われる具体的な解決案をメンバーに提案できる【提案力】 - 各種ツールまたそれらのドキュメント等を活用しながら計画された案を実現することができる【遂行力】 - 得られた結果や既存のプロセスから新たな問題を発見することができる【問題発見力】									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) WEリーグでアナリストとコーチ経験を持つ教員が「応用可能なスキルの獲得」をテーマに講義を行う。前半の単元では課題解決のための一連のプロセスを学習し、後半では受講者それぞれが現場等で得た問題を講義内の課題として扱う。本科目では主にHudl Sportscode/Dartfish/SNSツールを主教材とする。									
【使用教科書・教材・参考図書】 Hudl Sportscode Dartfish SNSツール					【授業時間外における学習】 実習・インターンシップ先などで解決できそうな/解決してみたい問題を見つける。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 本科目の到達目標、学習内容、受講時のルールを理解する	9	【授業単元】 ゲーム分析演習1 【到達目標】 4年次生内においてゲーム分析を進めて、演習を行う(卒業研究Ⅱと連動する)						
2	【授業単元】 アナリストの役割 【到達目標】 アナリストの役割について説明できる	10	【授業単元】 ゲーム分析演習2 【到達目標】 4年次生内においてゲーム分析を進めて、演習を行う(卒業研究Ⅱと連動する)						
3	【授業単元】 問題の言語化と現場で使われているコミュニケーションツール1 【到達目標】 メンバーと協力しながらチームにおける問題の言語化を行う。	11	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する中間発表1 【到達目標】 中間発表を実施し、相互レビューを行う(卒業研究Ⅱと連動する)						
4	【授業単元】 問題の言語化と現場で使われているコミュニケーションツール2 【到達目標】 メンバーと協力しながらチームにおける問題の言語化を行う。	12	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する中間発表2 【到達目標】 中間発表を実施し、相互レビューを行う(卒業研究Ⅱと連動する)						
5	【授業単元】 グループ演習:問題の立案とまとめ 【到達目標】 問題の言語化を個人で行い、まとめていく。	13	【授業単元】 ゲーム分析演習中間発表において、修正点の改善 【到達目標】 中間発表をレビューして得られた改善点を修正する(卒業研究Ⅱと連動する)						
6	【授業単元】 グループ演習:提案書の作成 【到達目標】 提案書を個人立案で作成する。	14	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する発表1 【到達目標】 アナリストとして情報収集、分析、伝達の学習成果を発表する。						
7	【授業単元】 グループ演習:提案書内容を実施することで期待できるシミュレーション1 【到達目標】 メンバーと協力しながら提案に対する、期待される効果のシミュレーションを行うことが出来る。(卒業研究Ⅱと連動する)	15	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する発表2 【到達目標】 アナリストとして情報収集、分析、伝達の学習成果を発表する。						
8	【授業単元】 グループ演習:提案書内容を実施することで期待できるシミュレーション2 【到達目標】 メンバーと協力しながら提案に対する、期待される効果のシミュレーションを行うことが出来る。(卒業研究Ⅱと連動する)		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とする。定期テストに代わるものとしてスライド発表60点満点で評価する。授業評価(小テスト・平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 グループで発表する場合、グループ内における貢献度で加点減点を行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】 特になし									

授業概要

科目名	卒研ゼミⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	宮地 佑典 (日テレベレーザ)		
サブ科目名		学年	4年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	スポーツアナリスト科								
【授業を通じての到達目標】									
Hudl SportscodeもしくはDartfishを通して、アナリストとして現場で通用するための4つの力を獲得する - 組織内の問題を言語化し、メンバーと共に理解を得ることができる【言語化力】 - 明らかになった問題に対して妥当だと思われる具体的な解決案をメンバーに提案できる【提案力】 - 各種ツールまたそれらのドキュメント等を活用しながら計画された案を実現することができる【遂行力】 - 得られた結果や既存のプロセスから新たな問題を発見することができる【問題発見力】									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する) WEリーグでアナリストとコーチ経験を持つ教員が「応用可能なスキルの獲得」をテーマに講義を行う。前半の単元では課題解決のための一連のプロセスを学習し、後半では受講者それぞれが現場等で得た問題を講義内の課題として扱う。本科目では主にHudl Sportscode/Dartfish/SNSツールを主教材とする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Hudl Sportscode Dartfish SNSツール					実習・インターンシップ先などで解決できそうな/解決してみたい問題を見つける。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 本科目の到達目標、学習内容、受講時のルールを理解する	9	【授業単元】 ゲーム分析演習1 【到達目標】 4年次生内においてゲーム分析を進めて、演習を行う(卒業研究Ⅰと連動する)						
2	【授業単元】 アナリストの役割 【到達目標】 アナリストに必要なスキルについて説明できる	10	【授業単元】 ゲーム分析演習2 【到達目標】 4年次生内においてゲーム分析を進めて、演習を行う(卒業研究Ⅰと連動する)						
3	【授業単元】 問題の言語化と現場で使われているコミュニケーションツール1 【到達目標】 実際の現場でのコミュニケーションツールを運用しているかを理解する	11	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する中間発表1 【到達目標】 中間発表を実施し、相互レビューを行う(卒業研究Ⅰと連動する)						
4	【授業単元】 問題の言語化と現場で使われているコミュニケーションツール2 【到達目標】 実際の現場でのコミュニケーションツールを運用しているかを理解する	12	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する中間発表2 【到達目標】 中間発表を実施し、相互レビューを行う(卒業研究Ⅰと連動する)						
5	【授業単元】 グループ演習:問題の立案とまとめ 【到達目標】 問題の言語化を個人でまとめたものを、メンバーと協力しながら合意形成を図ることができる	13	【授業単元】 ゲーム分析演習中間発表において、修正点の改善 【到達目標】 中間発表をレビューを通して得られた改善点を修正する(卒業研究Ⅰと連動する)						
6	【授業単元】 グループ演習:提案書の作成 【到達目標】 個人立案の提案書を元に、メンバーと協力しながら問題に対する提案書を作成する。	14	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する発表1 【到達目標】 アナリストとして情報収集、分析、伝達の学習成果を発表したものをメンバーに対してレビューを行う						
7	【授業単元】 グループ演習:提案書内容を実施することで期待できるシミュレーション1 【到達目標】 メンバーと協力しながら提案に対する、期待される効果のシミュレーションを行うことが出来る(卒業研究Ⅰと連動する)	15	【授業単元】 ゲーム分析演習に対する発表2 【到達目標】 アナリストとして情報収集、分析、伝達の学習成果を発表したものをメンバーに対してレビューを行う						
8	【授業単元】 グループ演習:提案書内容を実施することで期待できるシミュレーション2 【到達目標】 メンバーと協力しながら提案に対する、期待される効果のシミュレーションを行うことが出来る(卒業研究Ⅰと連動する)		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とする。定期テストに代わるものとしてスライド発表60点満点で評価する。授業評価(小テスト・平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 グループで発表する場合、グループ内における貢献度で加点減点を行う。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
特になし									

授業概要

科目名	卒研ゼミⅢ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	宮地 佑典 (日テレベレーザ)		
サブ科目名		学年	4年	授業形態	演習	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間
学科・専攻	スポーツアナリスト科								

【授業を通じての到達目標】

Hudl SportscodeもしくはDartfishを通して、アナリストとして現場で通用するための4つの力を獲得する

- 組織内の問題を言語化し、メンバーと共に理解を得ることができる【言語化力】
- 明らかになった問題に対して妥当だと思われる具体的な解決案をメンバーに提案できる【提案力】
- 各種ツールまたそれらのドキュメント等を活用しながら計画された案を実現することができる【遂行力】
- 得られた結果や既存のプロセスから新たな問題を発見することができる【問題発見力】

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

WEリーグでアナリストとコーチ経験を持つ教員が「応用可能なスキルの獲得」をテーマに講義を行う。前半の単元では課題解決のための一連のプロセスを学習し、後半では受講者それぞれが現場等で得た問題を講義内の課題として扱う。本科目では主にHudl Sportscode/Dartfish/SNSツールを主教材とする。

【使用教科書・教材・参考図書】

Hudl Sportscode/Dartfish

【授業時間外における学習】

実習・インターンシップ先などで解決できそうな/解決してみたい問題を見つける。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1.2	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 本科目の到達目標を理解する 本科目の学習内容について理解する 本科目における受講時のルールを理解する	17,18	【授業単元】 アナリストの役割① 【到達目標】 自身の考えるアナリストの役割を明確に伝えることができる 自身のアナリストとしての強みを表現できる
3.4	【授業単元】 複合的なツールの活用 【到達目標】 複数のツールを活用しながら課題を解決する事例を学ぶ 複数のツールを使用する際のポイントや注意点を理解する	19,20	【授業単元】 アナリストの役割② 【到達目標】 自身の考えるアナリストの役割を明確に伝えることができる 自身のアナリストとしての強みを表現できる
5.6	【授業単元】 応用演習:問題の言語化・解決案の立案 【到達目標】 問題を言語化し合意形成を図ることができる 問題に対していくつかの解決案を立案できる	21,22	【授業単元】 提案書の作り方① 【到達目標】 提案書作成のポイントを理解することができる
7.8	【授業単元】 応用演習:ツールの選定 【到達目標】 要件を満たすツールの選定を行うことができる	23,24	【授業単元】 提案書の作り方② 【到達目標】 提案書作成のポイントを理解することができる 仕事の獲得を目的とした提案書を作成することができる
9,10	【授業単元】 応用演習:計画の実行① 【到達目標】 計画された案を実行することができる	25,26	【授業単元】 提案書の作成① 【到達目標】 仕事の獲得を目的とした提案書を作成することができる
11,12	【授業単元】 応用演習:計画の実行② 【到達目標】 計画された案を実行することができる	27,28	【授業単元】 提案書の作成② 【到達目標】 仕事の獲得を目的とした提案書を作成することができる
13,14	【授業単元】 応用演習:評価・改善① 【到達目標】 自身の行ったプロジェクトの改善点を見つけることができる 自身の行ったプロジェクトから次の提案につなげることができる 他社のプロジェクトで紹介された事例から自身のプロジェクトの改善へつなげることができる	29,30	【授業単元】 成果発表(定期試験) 【到達目標】 自身のアナリストとしての価値を伝えることができる 仕事の獲得を目的とした提案を行ふことができる
15,16	【授業単元】 応用演習:評価・改善② 【到達目標】 自身の行ったプロジェクトの改善点を見つけることができる 自身の行ったプロジェクトから次の提案につなげることができる 他社のプロジェクトで紹介された事例から自身のプロジェクトの改善へつなげることができる		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とする。定期テストに代わるものとしてスライド発表60点満点で評価する。授業評価(小テスト・平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 グループで発表する場合、グループ内における貢献度で加点減点を行う。
	【履修に当たっての心構え・留意点】 特になし		